

令和 8 年度

事業計画書

社会福祉法人和福社会

(1) 法人運営の基本方針

① 法人理念・基本姿勢

法人理念

「明るい笑顔」「元気な挨拶」「丁寧な仕事」を大切にし、利用者・子ども・家族・地域に安心と信頼を届ける法人を目指します。日々の関わり一つひとつを大切にし、地域に必要とされ続ける福祉サービスの提供に取り組みます。

基本姿勢

(1) 明るい笑顔

- ・笑顔を大切にした関わりを通じて、利用者・子ども・家族に安心感を提供します。
- ・職場内においても互いを尊重し、明るく風通しの良い職場環境づくりに努めます。
- ・笑顔のある職場を通じて、職員の意欲と働きやすさの向上を図ります。

(2) 元気な挨拶

- ・日常的な挨拶を大切にし、職員間の円滑なコミュニケーションとチームワークを高めます。
- ・利用者や来訪者に対し、気持ちの良い挨拶を心がけ、法人への信頼と満足度の向上に努めます。
- ・情報共有と業務連携を円滑にし、効率的な事業運営につなげます。

(3) 丁寧な仕事

- ・一つひとつの業務を丁寧に行い、サービスの質の向上と事故・ミスの防止に努めます。
- ・利用者や家族の声に誠実に向き合い、信頼されるサービスの提供を行います。
- ・誠実で丁寧な業務の積み重ねにより、法人の信用と価値を高めます。

② 令和8年度事業運営の重点方針

- (1) 安定した事業運営と経営基盤の確立
- (2) 人材確保・育成・定着の推進
- (3) サービスの質向上と安全管理の徹底
- (4) 法令遵守・リスクマネジメントの強化
- (5) 地域との連携強化と信頼される法人運営

(2) 事業の概要

① 事業種別と事業所数

・介護老人福祉施設 3事業所

特別養護老人ホーム庄の里（本館） 定員50名

特別養護老人ホーム庄の里（新館） 定員60名

地域密着型特別養護老人ホーム庄の里「なごやか」 定員29名

- ・軽費老人ホーム 1事業所
ケアハウス庄の里 定員15名
- ・認知症共同生活介護 2事業所
グループホーム庄の里「なごみの家」 定員18名
グループホーム庄の里「和らぎの家」 定員18名
- ・通所介護 3事業所
庄の里デイサービスセンター 定員40名
デイサービスセンター庄の里「なごやか」 定員15名
認知症対応型デイサービスセンター庄の里「なごやか」 定員12名
- ・短期入所生活介護 2事業所
特別養護老人ホーム庄の里（本館） 定員10名
ショートステイ庄の里「なごやか」 定員10名
- ・訪問介護 1事業所
庄の里ヘルパーステーション
- ・居宅介護支援 1事業所
庄の里居宅介護支援センター
- ・地域包括支援 1事業所
倉敷市庄北高齢者支援センター
- ・保育所 2事業所
庄保育園 定員170名
庄なかよし小規模保育園 定員19名
- ・放課後児童健全育成事業 1事業所
庄学区仲よし児童育成クラブ 定員200名
- ・福祉有償運送 1事業所
庄の里福祉移送サービス

(3) 各事業所の目標

① 特別養護老人ホーム庄の里（本館）（新館）

- ・運営の基本方針

利用者ファーストの実現のため、職員が安心して働ける環境づくりを大切にし、職員ファーストの視点を重視して運営します。

- ・今年度の重点目標

中堅職員（リーダー層）のスキル向上と意欲の向上。

ICTの定着および活用の発展。

働きやすい職場づくりと職員定着率の向上。

安定した稼働率の維持と適切な職員配置。

- ・具体的取組

2025年度の中堅職員研修を踏まえ、継続的なステップアップ研修を実施する。

導入済みICT・介護ロボットの活用スキルを向上させる。

意見を言いやすい職場づくりやコミュニケーション改善に取り組み、心理的安全性を高める。

入居待機者の安定確保と管理を行い、ショートステイの新規利用者獲得に努める。

② 地域密着型特別養護老人ホーム庄の里「なごやか」

- ・運営の基本方針

地域と共に歩み、一人ひとりの「自分らしさ」を大切にしながら、安心・安全な生活環境を提供できるよう運営します。入居者の尊厳を守り、なじみのある生活習慣や人間関係を継続できるように支援するとともに、地域に開かれた施設として、信頼される施設づくりを目指します。

- ・今年度の重点目標

ICT・介護ロボットの活用による現場負担の軽減とケアの質の向上。

地域と共に歩む「開かれた施設」への再構築。

- ・具体的取組

個別ケアを徹底し、ユニットケアの特性を活かして、入居前の生活習慣を継続できる環境づくりや、外出などの楽しみの機会を提供する。

各職種による定期的なカンファレンスを強化し、生活機能の維持・向上を図る。

ICT・介護ロボットの活用を進め、記録業務の効率化および職員の身体的負担の軽減を図る。

施設スペースの積極的な地域開放と、日常的に住民が立ち寄れる仕組みを構築し、心理的な敷居の低い施設づくりを推進する。

地域行事やボランティア受入を通じ、地域との継続的な交流を図る。

③ グループホーム庄の里「なごみの家」

- ・運営の基本方針

認知症の利用者が家庭的な環境のもとで共同生活を営み、食事・入浴・排泄等の日常生活上の支援や機能訓練を受けながら、一人ひとりの尊厳を大切にされた生活が継続できるよう支援します。利用者の生活歴や価値観を尊重し、その有する能力に応じた自立した生活を支えるとともに、安心して穏やかに過ごせる環境づくりに努めます。

- ・今年度の重点目標

入居者の状態把握と早期対応の徹底。

利用者一人ひとりに寄り添った丁寧なサービスの提供。

職員の専門性および対応力の向上。

- ・具体的取組

入居者一人ひとりの「いつもの状態」を職員間で共通認識し、小さな変化に気づける体制を

整える。

体調や行動に変化が見られた場合には、複数の職員で確認を行い、早期に家族や医療機関へ相談・連携し、適切な対応を行う。

認知症の特性を理解し、声掛けのタイミングや関わり方、生活の段取りを工夫した支援を行う。

日常の会話や生活場面から得られる気づきを大切に、利用者一人ひとりの課題やニーズに沿った支援に繋げる。

「10分間ケア」等の取り組みを通じて、落ち着いて関われる時間を確保し、安心感のある支援を実践する。

ケア内容や支援方法について指導の統一を図り、リーダーが中心となって職員を支援する。

生活環境や支援環境の見直しを行い、認知症の方が安心して過ごせる環境づくりを行う。

内部研修や日常の振り返りを通じて、職員の対応力・判断力の向上を図る。

④ グループホーム庄の里「和らぎの家」

・運営の基本方針

利用者一人ひとりの有する能力や生活歴を尊重し、日常生活および集団生活において、可能な限り自立した生活が継続できるよう支援します。また、適切な人員体制を確保し、安定・安心・安全な施設運営を継続することで、利用者および家族に信頼される事業所運営に努めます。

・今年度の重点目標

人材の育成および職員の専門性の向上。

事故の未然防止および再発防止の徹底。

・具体的取組

内部研修・外部研修を計画的に実施し、研修内容や訓練の充実を図ることで、職員の知識・技術・対応力の向上につなげる。

事故・ヒヤリハット事例を職員間で共有し、発生要因の分析と改善策の検討を行い、再発防止に取り組む。

日常の支援場面においても振り返りの機会を設け、支援の質と安全意識の向上を図る。

新人職員や経験の浅い職員へのOJTを強化し、チームとして支援力を高める。

⑤ ケアハウス庄の里

・運営の基本方針

入居者一人ひとりの生活歴や価値観を尊重し、自立した生活の維持と安心・安全な暮らしを支援する。

心身機能の変化を早期に把握し、必要に応じて関係機関や他サービスと連携しながら、入居者が住み慣れた環境で安定した生活を継続できるよう支援する。

・今年度の重点目標

入居者の自立した生活を尊重した支援の充実。

安全・安心できる生活環境の確保。

入居者の心身状態の把握と早期対応の強化。

職員間および関係機関との連携強化。

・ 具体的取組

① 自立支援の充実

入居者の生活リズムや意向を尊重した声掛け・支援を行う。

できることは継続して行える環境整備を行う。

日常の変化を職員間で共有し、心身機能低下の兆候を早期に把握する。

② 安全・安心な生活環境の確保

居室および共用部分の定期的な点検と環境整備の実施。

転倒・事故防止に向けた注意喚起。

災害時・緊急時対応マニュアルの確認と職員間での共有。

③ 心身状態の把握と早期対応

日常的な声掛けを通じた体調・生活状況の把握。

体調変化や生活上の困りごとについて、早期に家族・関係機関へ相談。

④ 連携体制の強化

職員間の情報共有を重視し、申し送り・記録の充実を図る。

居宅介護支援事業所・医療機関・地域包括支援センターとの連携強化。

法人内の他事業所との情報共有による支援体制の充実。

⑥ 庄の里デイサービスセンター

・ 運営の基本方針

利用者一人ひとりの心身の状態や生活歴を尊重し、住み慣れた地域でその人らしい生活が継続できるよう、心身機能の維持向上・社会参加・家族の介護負担軽減を目的とした支援を行う。また、安心・安全なサービスの提供に努めるとともに、多職種・関係機関との連携を強化する。

・ 今年度の重点目標

心身機能の維持・向上に向けた個別支援の充実。

安心・安全なサービス提供体制の確立。

利用者・家族との連携強化と満足度向上。

職員の専門性向上とチームケアの強化。

・ 具体的取組

① 個別支援の充実

個別アセスメントに基づく計画的なサービス提供の実施。

機能訓練・認知症予防等の活動プログラムの充実。

「できること」を活かした支援の実施。

② 安心・安全なサービス提供

送迎・食事・入浴等の各場面における事故防止対策の徹底。

感染症予防・衛生管理の徹底。

緊急時の対応手順の確認および訓練の実施。

③ 利用者・家族との連携強化

連絡帳や電話等を活用し、日々の状況を丁寧に情報提供する。

利用者・家族からの相談・要望を適切に把握し対応する。

介護負担軽減に向けた助言や情報提供を行う。

④ 職員の専門性向上とチームケアの強化

介護技術・認知症ケア・機能訓練等に関する研修の実施。

事故・ヒヤリハット事例の共有と対策検討。

記録の充実と定期カンファレンスの実施。

⑦ デイサービスセンター庄の里「なごやか」

・運営の基本方針

住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続できるよう、利用者一人ひとりの心身の状態に応じた支援を行います。小規模というサービスの特性を活かし、利用者との信頼関係を大切にしながら、地域とのつながりも意識していきます。

・今年度の重点目標

利用者一人ひとりに寄り添った個別支援の充実。

安定した稼働率の維持と新規利用者の確保。

職員の専門性向上とチームワークの強化。

地域との連携・交流の推進。

・具体的取組

個別機能訓練や生活リハビリの充実。

利用者・家族との定期的な情報共有と相談対応。

小規模の特性を活かしたきめ細やかなケアの実践。

地域行事やボランティアとの交流機会の確保。

職員研修の継続実施と意見交換の場づくり。

送迎・入浴・食事サービスの質の向上。

⑧ 認知症対応型デイサービスセンター庄の里「なごやか」

・運営の基本方針

認知症のある方が安心して過ごせる環境を整え、その人らしい生活を尊重した支援を行います。症状や生活歴に配慮した個別ケアを実践し、不安の軽減と心身機能の維持・向上を図ります。家族支援と多職種連携を重視し、認知症ケアの拠点としての役割を果たしていきます。

・今年度の重点目標

認知症ケアの質向上と個別支援の徹底。

行動・心理症状（B P S D）への適切な対応力の強化。

家族支援の充実と相談体制の整備。

専門性の高い人材育成と職員定着の促進。

- ・ 具体的取組

生活歴や興味関心を踏まえた個別プログラムの実施。

落ち着いた環境づくりと事故防止対策の徹底。

家族への定期的な状況報告と相談対応。

認知症ケア研修への参加・事例検討会の継続実施。

医療機関・居宅介護支援センター等との連携強化。

⑨ ショートステイ庄の里「なごやか」

- ・ 運営の基本方針

利用者一人ひとりの生活歴や価値観を尊重し、食事・排泄・入浴等の日常生活において、残存機能の維持・向上を目指した自立支援を実践します。また、認知症ケアの専門性を高め、B P S D（行動・心理症状）に対しても、不安に寄り添った丁寧な関わりを徹底し、安心して過ごせるよう努めます。

- ・ 今年度の重点目標

地域との継続的な交流を図り、身近で頼られる施設となる。

認知症ケアの専門性向上。

業務効率化を図り利用者に関わる時間を確保する。

- ・ 具体的取組

地域交流スペースを活用し地域の福祉ニーズを把握するとともに、専門性を活かした相談・支援機能の強化を図る。

地域住民・ボランティアとの交流機会を確保し、地域に開かれた施設づくりを進める。

認知症ケア研修への積極的な参加により、専門的知識と技術の習得に努める。

不適切なケアの排除を徹底し、「ユマニチュード」等の技法を取り入れ、利用者の心理的安定を図る。

在宅介護を担う家族への支援（レスパイト）や緊急受け入れ体制の整備を行い、介護支援専門員との密な情報共有を行う。

I C T・介護ロボットを活用し、記録業務や間接業務の効率化を図る。

創出した時間を利用者への直接的な関わりに充て、より丁寧なケアの実践につなげる。

⑩ 庄の里ヘルパーステーション

- ・ 運営の基本方針

利用者一人ひとりの生活状況や思いに寄り添い、個別性を大切にサービスを提供します。家事等の生活支援においては、利用者と共に行動することで自立支援を図り、身体介護においては残存機能を活用した援助方法を取り入れ、「できること」を継続できるよう支援します。

- ・ 今年度の重点目標

利用者が24時間安心して暮らせる在宅生活を支えるサービスの提供。

職員の専門的知識・技術の習得によるサービスの質向上。

・具体的取組

利用者に関わる訪問時間は限られていることを踏まえ、訪問時間外も安心して生活を継続できるように、必要な支援について会議で検討し、統一したケアを実践する。

利用者一人ひとりの生活習慣や希望を共有し、その人らしい在宅生活が長く継続できるように支援する。

利用者の状態変化や生活上の変化があった際には、介護支援専門員や他事業所と密に連携を図り、迅速かつ適切な対応を行う。

職員一人ひとりに合わせた個別研修計画を作成・実施し、対応力および専門性の向上を図る。

⑪ 小規模多機能ホーム庄の里「つどいの家」

・運営の基本方針

住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように、「通い」「泊り」「訪問」のサービスを柔軟に組み合わせ、一人ひとりの生活状況や希望に応じた支援を行います。

利用者の尊厳と自己決定を尊重し、なじみの職員による継続的で安心感のある支援を通じて、地域に根ざした在宅生活の継続を支えます。

・今年度の重点目標

利用者の確保および安定した事業運営の確保。

利用者一人ひとりの思いを尊重した個別ケアの充実。

職員の専門性および実践力の向上。

・具体的取組

利用状況（登録・通い・泊り・訪問）を定期的に分析し、稼働率向上に向けた改善策を検討する。

定期的なアセスメントを充実させ、職員間の情報共有と支援方針の統一を図る。

利用者・家族との面談を通じ、意向に沿ったサービス調整を行う。

年間研修計画に基づき、内部研修・外部研修への参加を促進し、実践力の向上を図る。

小規模多機能の特性を活かした柔軟なサービス提供体制を整える。

⑫ 庄の里居宅介護支援センター

・運営の基本方針

利用者が在宅において、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう配慮し、利用者の意思および選択を尊重した適切なサービスの提供に努めます。公正中立な立場から、総合的かつ効果的にサービスを調整し、サービス計画を作成するとともに、各サービス事業所や医療機関等との連携を図り、心身機能の改善および悪化防止に取り組みます。職員の専門性を確保・向上させるため、継続的な学習や情報収集に努め、質の高いケアマネジメントの提供を目指します。

・今年度の重点目標

利用率の向上および安定した事業運営の確保。

・ 具体的取組

利用実績を月次で確認し、稼働率低下時には速やかに要因分析および改善策の検討を行う。

新規利用者の確保に向け、地域包括支援センターや医療機関等との連携を強化する。

利用者・家族の意向を丁寧に把握し、適切なサービス調整を行う。

介護支援専門員の研修参加や事例検討を通じ、ケアマネジメントの質の向上を図る。

⑬ 倉敷市庄北高齢者支援センター

・ 運営の基本方針

医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが相互に連携した包括的な支援を推進するため、ニーズの把握や地域包括ケアシステムの構築を行う。

地域特性をより明確にし、地域の特色や魅力を活かした効果的な事業の創出に取り組む。

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築を行う。

介護支援専門員に対する支援および指導を行う。

個別ケースの検討により、共有された地域課題を地域づくりや政策形成に着実に結びつけていくことで、地域包括ケアシステムの構築に向けた施策の推進につなげる。

地域包括ケアシステムの構築に向け、行政の各担当課と連携を図り、支援困難なケース等について、迅速な対応ができるよう努める。

常に公益性の視点に立ち、公正・中立なサービスを提供する。

地域包括支援センター運営協議会において提言された内容への対応を行う。

・ 今年度の重点目標

支援を必要としている高齢者やその家族を発見し、必要な医療や介護のサービスにつなげる等の支援を行う。

職員のスキルアップを図り、複合的な課題を抱えた事例等に対し、他分野との連携を密に行うことで適切に支援を行う。

日頃の活動を通じて、地域課題を把握するとともに、生活支援コーディネーターと協働し、地域住民が課題解決に向けた取組を主体的に行えるように支援する。

・ 具体的取組

これまで関わりのない高齢者の状況を把握する。(一人暮らし高齢者および高齢者のみの世帯を重点とする)

要支援認定を受けているが、介護サービスの利用実績がない方について状況を把握する。

センター内外の事例検討や研修などを通じて、困難事例対応のスキルアップ、専門性の向上を図る。

重層的支援体制整備事業と連携し、複合的な課題を抱えた事例等に対し、センター内の三職種での検討に加え、他分野や地域の関係機関と共に、適切に支援する。

個別支援や教室開催などを通じて地域課題の把握に努め、小地域ケア会議等において問題提起や情報共有を図る。

住民主体での取組に向け、小地域ケア会議等を通じて、専門職や住民組織、民間企業等と顔の見える関係づくりを行う。

⑭ 庄の里福祉移送サービス

・運営の基本方針

移動手段の確保が困難な方に対し、安全で安心できる移動サービスを提供し、通院や買い物など日常生活を支えることを目指し運営します。利用者の外出機会を確保し、社会参加の促進と生活の質の向上に努めます。また、関係法令および運営基準を遵守し、安全運行を最優先とした事業運営を行います。

・今年度の重点目標

安全運航体制の強化。(事故・ヒヤリハットゼロを目指す)

利用ニーズの把握と適切な運行計画の作成。

運転者の研修充実と資質向上。

運行記録・料金徴収等の適正な事務運営。

・具体的取組

乗車・降車介助や車いす固定方法の確認と徹底。

運転者に対する講習の継続実施。

交通状況・天候に応じた安全運行の徹底。

利用予約状況の管理と適切な配車。

苦情・事故発生時の報告体制の整備。

関係法令・ガイドライン等の定期的な点検。

⑮ 庄保育園

・運営の基本方針

保育所保育指針および全国保育士会倫理綱領を基に、子どもの安全と成長を最優先とした保育を実施する。

保護者との信頼関係を大切にした園運営を行う。

・今年度の重点目標

保育の質の向上と安全管理の徹底。

職員の専門性向上と定着。

保護者満足度の向上。

・具体的取組

保育計画の共有と振り返りを定期的に行う。

事故・ヒヤリハット事例を職員間で共有し再発防止に努める。

保護者との面談や情報発信を通じて連携を強化する。

⑯ 庄なかよし小規模保育園

・運営の基本方針

保育所保育指針および全国保育士会倫理綱領を基に、子どもの安全と成長を最優先とした保

育を実施する。

保護者との信頼関係を大切にしたい園運営を行う。

- ・今年度の重点目標

保育の質の向上と安全管理の徹底。

職員の専門性向上と定着。

保護者満足度の向上。

- ・具体的取組

保育計画の共有と振り返りを定期的に行う。

事故・ヒヤリハット事例を職員間で共有し再発防止に努める。

保護者との面談や情報発信を通じて連携を強化する。

⑰ 庄学区仲よし児童育成クラブ

- ・運営の基本方針

子どもたちが放課後を安心して過ごせる居場所づくりを大切にしたい運営します。一人ひとりの思いと個性を尊重し、遊びや生活、宿題の時間を通して、楽しく成長できるよう支援します。安全管理を徹底するとともに、家庭や学校、地域と連携し、保護者の子育てを温かく支えていきます。

- ・今年度の重点項目

事故・ヒヤリハットの削減と危機管理体制の強化。

配慮を要する児童への支援体制の充実。

生活の中における学習支援・生活習慣支援の質向上。

保護者との連携強化と情報共有の充実。

人材育成の計画的実施。

受入定員・環境整備等、将来的な需要を見据えた運営検討。

- ・具体的取組

- ①安全・安心の確保

施設内外の危険個所の把握および定期点検。

事故・ヒヤリハットの共有と再発防止策の徹底。

避難訓練（火災・地震・水災・不審者対応）の計画的実施。

送迎・来所・退所時の児童確認方法の徹底。

- ②支援内容の充実

基本的生活習慣（挨拶・整理整頓・時間管理）の指導。

遊びの充実（集団遊び・季節行事・体験活動）

安全に関する自己管理能力の支援。

- ③配慮を要する児童への対応

関係機関（学校・相談機関等）との連携強化。

職員間でのケースカンファレンスの実施。

④保護者・地域との連携

連絡や面談等による情報共有。

苦情・要望の受付体制の明確化。

地域行事や関係団体との協力体制づくり。

⑤職員体制・人材育成

新任職員研修・定期研修の実施。

児童虐待防止・障がい理解・発達支援等の専門研修への受講。

支援員間の定期会議の実施。

⑥環境整備

安心して過ごせる環境づくり。

遊具・教材・図書を整備。

感染症対策・衛生管理の徹底。

⑱ 倉敷市ボランティア送迎支援事業

・運営の基本方針

地域に暮らす高齢者が、安心して買い物に出かけることができるよう支援し、外出機会の確保と社会参加の促進を図ります。安全を最優先に、利用者一人ひとりの状況に配慮した温かいサービス提供に努めます。

・今年度の重点目標

安全運行と事故防止の徹底。

外出機会の提供による生活意欲の向上。

利用希望者の把握と適正な定員運用。

・具体的取組

送迎時の乗降介助、道路状況等に配慮した安全運転の徹底。

買い物時の見守りや声かけにより、安心して参加できる環境づくり。

利用申し込み状況の把握と待機者の管理。

緊急時連絡体制や事故発生時の対応手順の再確認。

(4) サービスの質向上・専門性の強化

① サービスの質向上に向けた基本的な考え方

法人理念である「明るい笑顔」「元気な挨拶」「丁寧な仕事」をすべての事業における基本姿勢とし、利用者・子ども・家族にとって安心できるサービスの提供を目指す。

日々の業務を振り返り、改善を積み重ねることで、継続的な質の向上に取り組む。

② 利用者・子ども本位のサービス提供

利用者・子ども一人ひとりの状態や思いを尊重した支援・保育を行う。

家族との情報共有を大切にし、信頼関係の構築に努める。

意見・要望・苦情を真摯に受け止め、サービス改善につなげる。

- ③ 業務の標準化と業務改善の推進
業務マニュアルの整備および定期的な見直しを行う。
O J Tや職員間の情報共有を通じて、業務の属人化を防ぐ。
記録・情報共有の効率化を図るため、I C T機器やシステムの活用を進める。
職員の業務負担軽減を図り、利用者・子どもと向き合う時間の確保につなげる。
導入後は活用状況を確認し、運用方法の見直しを行う。
- ④ 職員の専門性向上と支援体制
内部研修・外部研修を活用し、専門知識および技術の向上を図る。
新人職員や経験の浅い職員への指導體制を整備する。
職員が安心して相談できる体制を整え、質の高いサービス提供につなげる。
- ⑤ 苦情・事故・ヒヤリハットの活用
苦情・事故・ヒヤリハットの発生状況を把握し、再発防止に努める。
事例を職員間で共有し、注意喚起および改善策の検討を行う。
重大事故の防止に向けた意識づけと確認を徹底する。

(5) 人材の確保・育成と働きやすい職場づくり

- ① 人材確保の方針
少子高齢化や人材不足が進む中、法人全体として多様な人材の確保に取り組む。新卒・中途採用に加え、外国人材の受入についても関係法令を遵守したうえで推進し、研修や支援体制を整え、安心して働ける職場環境づくりを進めていく。
- ② 研修・育成体制
職員一人ひとりの資質向上を図り、安定したサービス提供と法人理念の実践につなげる。
 - ・新任職員に対する研修を実施し、法人理念、基本的な業務姿勢の理解を深める。
 - ・O J Tを基本とし、先輩職員による指導・助言を通じて実践的な育成を行う。
 - ・職種や経験年数に応じた内部研修や外部研修の参加を促進する。
 - ・外国人職員に対しては、業務理解やコミュニケーション面に配慮した育成を行う。
- ③ 働きやすい職場づくり
職員が安心して働き続けられる職場環境を整え、定着率の向上とサービスの質の確保を図る。
 - ・法人理念である「明るい笑顔」「元気な挨拶」「丁寧な仕事」を日常業務の中で実践する職場風土づくり。
 - ・職員間のコミュニケーションを大切にし、風通しの良い職場づくりを進める。
 - ・業務負担の軽減や業務の効率化に向け、I C Tの導入および活用を進める。
 - ・多様な働き方に配慮し、仕事と家庭の両立を支援する職場環境の整備に努める。
- ④ 相談体制とメンタルケアの充実
職員が安心して悩みや不安を相談できる体制を整え、トラブルの未然防止と早期対応を図る。
 - ・ハラスメント相談窓口を設置し、相談内容の秘密保持を徹底する。

- ・相談者の意向を尊重し、必要に応じて関係部署と連携しながら適切な対応を行う。
- ・職場内での悩みや不安について、上司や管理者へ相談しやすい体制づくりを進める。
- ・外国人職員についても、安心して相談できる環境づくりに配慮する。

(6) 法令遵守・リスクマネジメント

① 基本的な考え方

社会福祉法人としての公共性・公益性を踏まえ、関係法令および内部規程を遵守し、適正かつ透明性の高い法人運営に努める。また、日常業務に潜むさまざまなリスクを把握し、組織として適切に対応できる体制の整備を進める。

② 法令遵守体制の整備

- ・関係法令、行政通知、内部規程等の周知徹底を図る。
- ・管理者および職員に対し、法令遵守の重要性について継続的に意識づけを行う。
- ・不適切な事案が発生した場合には、速やかに事実確認を行い、再発防止に努める。

③ ハラスメント防止および相談体制

- ・ハラスメント防止に関する基本方針を明確にし、職員への周知を行う。
- ・相談窓口を設置し、相談内容の秘密保持を徹底する。
- ・相談者の不利益が生じないよう十分配慮し、適切な対応を行う。
- ・すべての職員が安心して相談できる体制づくりに努める。

④ 虐待防止体制の整備

- ・虐待防止に関する基本方針の周知徹底
- ・職員に対する虐待防止研修の実施
- ・虐待が疑われる場合の相談・報告体制の整備
- ・関係機関や行政との連携による適切な対応

⑤ 個人情報保護・情報管理

- ・利用者および職員の個人情報について、適切な管理を行う。
- ・個人情報の取り扱いに関するルールを遵守し、情報漏洩の防止に努める。
- ・ICTの導入・活用にあたっては、セキュリティに十分配慮する。

⑥ 事故防止・リスクマネジメント

- ・事故やヒヤリハット事例の共有を通じて、事故防止意識の向上を図る。
- ・緊急時に備えた連絡体制や対応手順の確認を行う。
- ・事業所ごとの特性を踏まえ、必要な安全対策を講じる。

⑦ 感染症対策の徹底

- ・利用者および職員の安全を確保するため、感染症発生時の対応手順を整備する。
- ・日常的な衛生管理の徹底および職員への周知を行う。
- ・感染症発生時には、関係機関と連携し、迅速かつ適切な対応に努める。

⑧ BCP（業務継続計画）

災害や感染症等の非常時においても、必要なサービスを継続できるよう、業務継続計画（BCP）を整備し、定期的な見直しと訓練を行う。非常時の役割分担や連絡体制を明確にし、法人全体での対応力向上を図る。

（７） 地域連携・社会貢献・広報

① 基本的な考え方

地域に根ざした福祉サービスの提供を基本とし、利用者が住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、関係機関や地域住民との連携を大切にされた運営を行う。

② 関係機関との連携強化

- ・行政、地域包括支援センター、医療機関等との連携を継続する。
- ・他事業所や関係団体との情報共有を通じ、円滑な支援体制を構築する。
- ・利用者の状況に応じ、必要な関係機関と適切に連携を図る。

③ 地域とのつながりづくり

- ・地域行事や交流の機会を通じ、地域との関係づくりを大切にする。
- ・事業所の役割や取組について、地域への理解促進に努める。
- ・地域の一員として、開かれた事業所運営を行う。

④ 防災・災害時の地域連携

- ・災害時における地域との協力体制について、関係機関と連携を図る。
- ・避難所対応や情報共有等について、地域との役割確認を行う。
- ・平時からの備えとして、地域との連携意識を高める。

⑤ 地域への情報発信と信頼関係の構築

- ・法人の取り組みや事業内容について、適切な情報発信を行う。
- ・見学や相談等に丁寧に対応し、地域から信頼される法人運営を目指す。
- ・地域の声に耳を傾け、サービス改善に活かす。

⑥ ボランティア・実習生の受け入れ

- ・地域住民や学生等のボランティア受け入れ。
- ・学校等からの実習生受け入れへの協力。
- ・受け入れ時のオリエンテーションおよび指導体制の整備。

（８） 経営の安定化・運営基盤の強化

① 基本的な考え方

安定した法人運営を継続するため、健全な財務基盤の確立と、中長期的な視点に立った経営を行う。限られた財源を有効に活用し、質の高いサービス提供と経営の安定の両立を図る。

② 収支管理と経営の見える化

- ・予算および実績の把握を行い、適切な収支管理に努める。
- ・経営状況について、理事会等へ適切に報告を行う。

- ・事業ごとの状況を踏まえ、必要に応じた経営判断を行う。

③ 経費管理・コスト意識の向上

- ・経費の適正化を意識し、無駄のない法人運営に努める。
- ・消耗品や備品の管理を徹底し、計画的な支出を行う。
- ・業務の効率化により、コスト削減につながる取り組みを進める。

④ 施設・設備の維持管理と計画的整備

- ・施設や設備の安全確保を最優先とした維持管理を行う。
- ・老朽化への対応について、計画的な修繕・更新を検討する。
- ・利用者および職員が安心できる環境整備に努める。

⑤ 補助金の適切な活用

- ・各種補助金について、制度趣旨を踏まえた適切な活用を行う。
- ・申請や報告等の事務について、正確かつ確実に対応する。
- ・制度変更への情報収集を行い、経営に活かす。

⑥ 中長期的視点での法人運営

- ・社会情勢や制度動向を踏まえ、中長期的な法人運営を意識する。
- ・人材確保、育成、施設整備等について、計画的に検討を行う。
- ・将来を見据えた安定した法人運営に努める。

(9) 年間行事

① 年間行事予定

- ・季節行事の実施。
- ・敬老の趣旨を踏まえた行事の実施。
- ・地域や家族との交流を目的とした行事の実施。
- ・防災訓練や避難訓練、不審者対応の実施。
- ・職員研修や会議等の実施。